

会議名	平成28年度第1回西尾市図書館協議会
日時	平成28年6月22日(水)午後3時～4時30分
場所	西尾市立図書館 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、浅井委員、高橋委員、石原委員、鳥山委員、山下盛委員、大須賀委員
市係等出席者	岩瀬部長、今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
<p>協議会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <p>1 あいさつ 岩瀬教育部長</p> <p>2 自己紹介 委員全員の自己紹介 事務局職員の自己紹介</p> <p>3 会長及び副会長選出 委員からの推薦及び承認により会長 尾崎隆爾委員、副会長 赤堀隆委員に決定。</p> <p>4 議題 (1) 平成27年度事業実績について 図書館のあゆみ(平成28年度版)にそって原田館長補佐から報告。 蔵書状況(蔵書数720,308冊)、貸出冊数(1,079,928冊。伸び率105.3%で貸出しの増えた要因の一つは延長貸出しのサービスを始めたため)、利用者数(246,076人)、時間・曜日別利用状況(一番利用の多い曜日・時間帯は土曜日の午前11時から12時、全体で利用の多い時間帯は午後4時から5時)、入館者数(488,973人)、新規登録者数(3,768人)、図書館活動指標5年間の推移(ほとんどが前年度より伸びているが、図書購入費だけが下がっている)について説明。</p> <p><b>質問</b> 子どもの読書離れ、活字離れと言われているが、児童書の貸出しが107.7%と伸びていて安心をするが、子どもたちが図書館に来る時間がないと思う。こういった中で、貸出し方というかそういったことを補足説明して頂きたい。</p> <p>→ 図書館に来る方は親御さんと一緒に来る人が大部分で、高学年の子どもだけで来る子は本好きの子で、図書館の近くに住んでいる子どもだと思われる。この数値が伸びている分は、学校・保育園支援で、具体的な事業としては保育園に行つて読み聞かせをするというようなアウトリーチ的なものや、子どものいる施設に本を貸出して、子どもがそこにいる間に本を使つていただくというものである。学校・保育園等への貸出状況ということで、今年度は68,262冊だが前年度は59,857冊ということでこの数値が伸びている。環境が整うと本に手が伸びるということを期待して、子ども読書活動推進計画の中でも環境整備というところの取り組みとなっている。</p> <p><b>議長</b> それでは、児童書の貸出しで38,000冊増えた中の1万冊くらいがこれということだが、学校の方の関係で団体貸出に関して何かご意見はあるか。</p> <p>→ 学校の図書担当の先生が集まる会議で図書館から説明をしてくださるので、一般の先生たちも、まとめてたくさん借りることができて、それを以前は自分たちで取りに行き運んでいたのを学校まで届けていただけるという配本サービスがあるということが周知されているようだ。大変助かっている。それがもっと広がればこの数が増えると思う。</p> <p><b>議長</b> テレビやインターネット、ITによる弊害をカバーするものは、漢字、読書、日本語が一番だ、英語教育の中でも日本語はやらないといけない。全体を考える思考力は日本語しかない。先日福井県に行ったが、あそこは白川静という学者の出したところだから、小学校1年から漢字の本を勉強していたり百人一首をやっていたりする。インター</p>	

ネットやテレビである程度の知識は得られるが、それを全体的に総合的に考えると、更に長期的な次の世代や、自分の将来のことまで考えると漢字文化から思考力が生まれてくるのではないかと思う。

**質問** 雑誌についてだが、新しく追加になったり、消されたりしたものがあるが、図書館で検討したのか。4館とも揃っている雑誌は一番ポピュラーなものものだと思うが、その辺をどのように取捨選択したのか教えてほしい。

→ 雑誌については、最近新しい雑誌もたくさん出るが、淘汰されて休刊も多くある。図書館に入っている雑誌で休刊になったものは、内容的に類似したものや分野的に所蔵のない分野のものもあるので、それを考慮に入れて選書会議で選んでいる。本館は基本的なものをすべて揃えるようにしている。最近、なるべく4館ともにあるというような形にしていない。種類を多く入れたほうが、いろいろな雑誌が楽しめる。他館から予約して取り寄せることもできるため少し本をバラしている。利用者からはリクエストとしては受けていないが、カウンターでお聞きしている声を参考にさせていただいている。

**事務局** 図書館に寄せられた市民の声について、生田主任主査から報告。(資料1)

サービスについて11件、施設について4件、その他2件のご意見をいただいた。

**質問** 給与が安いというのは誰のことか。西尾市の職員のことか、それともパートのことか。

→ 図書館の臨時職員の時間給がもう少し上がると意識も高まり、それが図書館サービスの向上につながるのではないかとのご意見です。

**質問** 市全体で臨時職員の時間給の金額は決まっているのか。司書の資格があると金額が違うということはないのか。

→ 市全体で決まっており、司書資格の有無で金額が違うということはない。

**質問** 最低基準があると思うが、それより下ということはないよね。

→ それはない。

**意見** 上げたほうがやる気が出る。

→ 行財政改革の真ただ中であり、ほかの職種についても同じことになり、ありがたいお言葉だが、今の現状ではなかなか難しい。

## (2) 平成28年度図書館事業計画及び予算について

原田館長補佐より説明。(資料2)

基本方針の中では、障害者サービスを入れた。

施策の主なものとして、米津ふれあいセンターの入れ替え、ホームページに職員のおすすめ本を紹介するページを定期的に更新、「毎月23日は読書の日」を定着させていく。子ども読書活動推進計画第三次の策定に向けては、これからすすめていき、平成29年10月に完成する形でもっていく。雑誌スポンサー制度については、積極的に渉外活動をしていく。障害者・高齢者に対するサービスでは、郵送貸出サービスの利用の申込みがつい先日初めてあった。施設管理については、本館の非常用照明器具の整備修繕や屋外階段に手すりを設置する。

**質問** 今年度の予算で、工事請負費が前年度と比較すると多いのは、非常用照明器具の工事のことか。

→ はい。非常用照明器具改修工事と屋外階段の手すり設置工事、事務室の空調機の工事等全て合わせて、前年度より多くなっている。

**質問** 図書購入費で、特色のある図書館づくりが載っているが、これは何か。

→ 4館が同じ本を持つのではなく、それぞれの館が特色を持った本を集めていくということで、本館は拠点ですので基本的な図書と参考資料、郷土資料を中心に揃えていく。一色については民俗資料と絵本を選書購入していく。吉良は歴史と文学を中心に、幡豆は植物と自然に関する本を中心に集めていく。このために特色のある図書館づくりとして別に予算枠をとっている。

**質問** それで、講演会で吉良は吉良で、一色は一色でそういった内容の講師を呼んでくる

というところにつながるのか。

→ それもひとつである。

**意見** 図書館はすごく頑張っていると感心している。年々図書購入費が下がっているにもかかわらず、利用者、貸出数が増えているのは素晴らしい。総合的に図書館の質が上がってきているのかなと思う。30年くらいこの図書館を利用しているが、その頃と比べるとかなり良くなってきていると感じる。今のような形態でもっと良い所を伸ばして欲しい。

ひとつ気になったのが職員研修だが、いろいろなところへ行きいろいろな人、図書館だけではなくNGOやNPOの人などに関わり、視点を変えた研修もされたいかがか。図書館という枠を離れた研修をされるとよいと思う。

インターネットの関係だが、予算がなくてなかなか直らないということで、言いたいことはいくつもあるが、今まで言ったことを順次直して頂けたらと思う。

**質問** 職員のおすすめの本をホームページに載せていると言われたが、職員の固有名詞は載せてないか。何冊か書くのか。

→ 2週間に一度、1名ずつ更新していくという形で、1冊をコメント100字から200字程度で書き、どんな本で、どう感じたかをおすすめしている。趣味に走ったものもあったりするが、それを読んでおもしろいと思ったら、借りて頂きたいところだが、ただ、そのページに辿り着くのがホームページ上で難しいので、それを読んで本を借りに来たという人がいたらいいと思う。

**意見** インターネットを使えない人のために玄関に一枚貼っておいて頂けると良い。

→ わかりました。

**質問** Aさんの本の時は借りにくる人が多かったりホームページを見に来る人が多くて、Bさんのときは流行らないとかというように評価されてしまうことはないか。比べることが嫌いなので、そうならないか心配している。

**質問** ボランティア養成講座をやっていただいているが、初心者の方が参加したその後の動向はどうか。なるべく続けてやる方向でお願いしますと言っているのか、それともただ講座を受けるだけなのか。

→ 昨年度読み聞かせの講座を受けた方は、学校のボランティアをはじめの方が多かった。高齢の男性がどこか活動する場所はあるかと聞かれたので、紹介はさせていただいた。たぶん、そのまま続けていらっしやると思う。

**意見** ある学校の図書ボランティアで、ボランティアに応募したはいいいけれど経験が少ないと、どう活動したらいいのかわからないという雰囲気、それを指導してもらえないような、何かきっかけがあるといいという声を聞いた。お互い仲間同士だと上目線で指導がしづらいので、ちゃんとしたルートのそういったものを紹介してあげられるといいのかなと思う。

→ 今年度は、来月読み聞かせボランティアの初級講座を開催するが、図書館で講座をするのではなくて、その学校に出向いて行って指導をするということか。

**意見** 学校からもし要請があれば、できればそういった勉強会みたいなものをしてもらえるとよい。そういった窓口が図書館があれば、声をかける学校も結構あると思う。

**意見** 先日教えてもらった本で、「日本語を味わう名詩入門16 茨木のり子」という本があった。これは小学生向けの本だが、実際は小学生には難しい。学校でやる詩などは、試験があったり先生に指されると思うとみんな嫌いになってしまう。大人が読むと楽しい。

**意見** 図書館も市民の声に敏感で、早めに対応してもらっていて、ふれあいセンターでも好評である。ひとつ、運営計画の中で最後の言葉が、努める、推進する、検証を行う、充実させるなどとあるが、具体的に一年かけて何をどのように充実させたか、できなかったものに対しては、今何パーセントまで行っているかをきちっと報告して頂きたい。

予算の中で旅費が少ない気がする。研修とは研究と修行の場である。研究とは心理を探求することで修行とは人格を磨くことである。せっかく研修に行くのなら、人格を磨くこともいろいろな場に出かけて行ってやってもらえると良い。市民向上サービスのた

めに行く旅費なので、もう少し上げると良いのではないか。

(3) その他

原田館長補佐より3点報告

① 分館の業務委託に係るプロポーザルの結果について

前回と同じ株式会社図書館流通センターに決まった。委託期間については、一色学びの館のみPFI事業との関係もあり1年間になっているが、その進み具合によっては延びる可能性もある。

② 施設再配置事業について

一色学びの館については、いっしき市民交流広場として運営されていく。6月議会で契約が締結された後に、運営や改修などの細かい詳細を詰めていくと聞いている。

③ 各館の図書館まつりについて

7月の1週目から順次4館が毎週開催していく。昨年度までは図書館協議会で開催していた郷土に関する講演会を、今年度からはこの図書館まつりの中で市の事業として開催する。今回は西尾市出身の声優・小山茉美さんの朗読会を実施する。

**質問** 施設再配置事業について、平成30年度から42年度までの12年間を委託するとすると、途中でこのやり方は気に入らないとか、これはいいなどの市民の声を聞いた修正や微調整はどうやるのか。いま一番いいことをやっても10年後30年後に同じ評価をされるかどうかはわからない。軌道修正しながら、新しいことを取り入れて古いことを切り捨ててやっていかないといけない。

→ モニタリングということで、その事業が適正に行われているかということをして市の内部でやるものと、業者に委託したそれで検証していく。その結果でうまくいっていなければ指導が入るということを知っている。

**会長** 西尾市に関係する人の図書館講演会を、昨年度まで図書館講演会実行委員会として行なっていたが、今年度からは市の事業でやるという形になった。それが先ほどの小山茉美さんの講演会である。もし委員の皆さんでご興味のある方がいらっしゃいましたらご参加いただきたい。

**事務局** 次回の協議会の開催について説明

第2回は10月頃を予定

**会長** 会長により西尾市図書館協議会を閉会した。